

魚介用消臭剤 東南アへ輸出

カルファケミカル

バイオ関連製品のベンチャー、カルファケミカル(本社横浜市、社長小池恵治氏、資本金三千万円)は魚介類の悪臭を抑え鮮度を保持する高機能液体消臭剤の輸出を開始した。東南アジアへ出荷したのをはじめ欧米へも順次輸出する。悪臭成分を根本的に分解する従来にはないタイプの鮮度保持剤で、水産会社や食品流通業での利用を見込んでいる。

輸出先は水産業が盛んなタイが中心で、エビ、イカ、魚の捕獲船に同社製の消臭液を乗せて利用する。「カルファVLI00S」(商品名)はカルシウムやナトリウムなど活性ミネラルイオンを含み、魚肉が腐敗する時にでる悪臭成分を無臭物に変える働きをする。鮮度保持効果が大きく、魚介の傷みを最小限にして消費者に届けることが可能だ。

当面月間四十トンのペースで輸出するが、仏、米国などからも引き合いがあるという。今後は水産加工業者にも売り込む。